

# 事例 1

## 引きこもった小学生への支援

### 背景や要因

経済的困窮  
保護者の精神疾患

### 1 気になる状況

#### 相談内容

小学5年生男子  
完全不登校で直接会うことができない

#### 経緯と現状

両親は、本児童が小学2年生の時に離婚している。以後、母親と祖母に養育される。母親は、うつ病を患い通院しており定職に就けず、祖母の年金で生活している。

小学4年生の時、欠席が多かったが、不登校には至らない程度の欠席日数だった。しかし、小学5年生に進級したと同時に登校しなくなり、現在まで一日も登校できず引きこもってしまっている。

電話もつながらないことが多く、本人だけでなく、母親とも話をすることがなかなかできない。

#### 学校

SSWrを  
要請

#### SSWr

- 相談の詳細を確認するため学校を訪問し、担任や養護教諭から情報収集を行った。
- 担任の家庭訪問に同行し、家庭環境、保護者の様子を確認した。
- 保健福祉センターが母親を支援しているとの情報があつたので、保護者に許可をもらった上で、保健福祉センター担当から、これまでの支援の状況について確認した。

#### SSWr

#### 学校にケース会議開催を提案

- 参加者の選定や連絡・調整について助言
- 会議にも参加し、支援策について助言

### 2 ケース会議

#### アセスメント（課題の背景や要因の見立て）

本人について (生育歴、学校や家庭での様子など)	家族について (保護者・兄弟姉妹等の状況など)	その他 (経済状況、地域社会との関係、家庭の様子など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 両親の離婚に伴い、小学2年生から祖母に養育されている。</li> <li>● おとなしく、友達も少ない。</li> <li>● 学校への登校意欲が見られない。</li> <li>● 学習に遅れがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本人、母親、祖母の三人で生活している。</li> <li>● 実父とのつながりはない。</li> <li>● 母親は、本人を養育できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入は祖母の年金のみで、生活保護支援を受け入れず、拒んでいる。</li> <li>● 保健福祉センター担当と祖母の関係は良好である。</li> <li>● 民生委員が定期的に家庭の様子を見ている。</li> <li>● 近くに親戚など頼れる人はいない。</li> </ul>

#### 考えられる背景要因

- 生活のリズムが崩れていることが考えられる。
- 母親は、学校経費が気になり、本人を登校させないことが考えられる。
- 母親の精神疾患により、本人は母親からの愛情を十分に感じられずに育ったと考えられる。

#### 現在行っている学校の対応

- 担任、学年主任 …… 週に1回程度、家庭訪問し安否を確認している。学習プリント等を提供している。
- 教頭 …… 月末、教育委員会に状況を報告している。

#### プランニング①（課題解決に向けた目標の設定）

##### 長期的な目標

- 学校へ登校または適応指導教室に通級することができる。
- 生活のリズムを整え、安定した家庭生活を送ることができる。

##### 短期的な目標

- 担任または学年主任に、生活の様子等について話すことができる。
- 決まった時間に起床や就寝、食事をすることができる。
- 一日一回、玄関から外に出ることができる。

学校は、本人が不登校の状態になってしまうかもしれないという危機感を持ち、情報共有し丁寧に対応してきたとのこと。しかし、小学5年生に進級したと同時に不登校状態になり、本人とも会話ができない状態までになってしまい、学校だけでは解決に向けた支援は不可能と判断し、教育委員会を通じて依頼があった事例です。

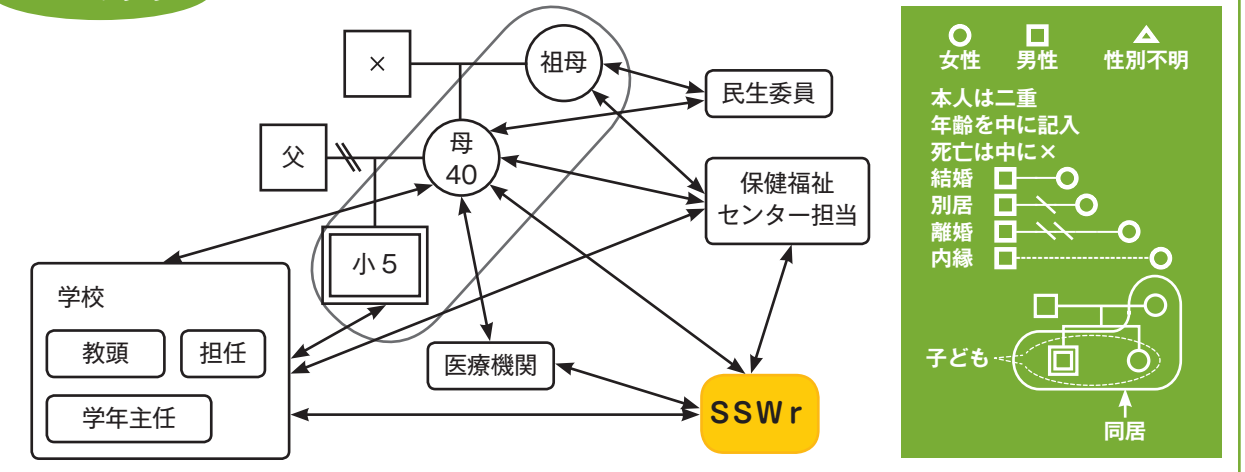
依頼があった後、まずは学校を訪問し相談内容を詳しく伺いました。既に、福祉的な支援が入っているということだったので、可能な範囲で情報を集めた後、今後、協力を得たい関係機関を含めたケース会議を行うことを提案し、開催していただきました。

現在も支援は継続中ですが、本人や母親との関係も構築できたので、本人や母親の思いも大切にしながら関わっています。



SSWr

### エコマップ



#### プランニング② (具体的な手立てと役割分担の決定)

##### 担任・学年主任

- 本人との会話ができるよう、引き続き、家庭訪問を行う。また、本人の意思を尊重しながら、学習支援も行っていく。

##### 教頭

- 本人が適応指導教室への通級や別室登校を希望したときに備え、教育委員会への報告・相談や校内体制、環境の整備にあたる。

##### SSWr

- 保健福祉センター担当と民生委員との情報交換を定期的に行う。そこで得た情報については、学校にも提供していく。
- 担任が家庭訪問を行う際に同行し、母親や祖母との関係を構築する。
- 母親が通院している医療機関との連携を図るため、母親の承諾を得られるよう努める。
- 家庭の安定的な収入が図れるよう関係機関に働き掛け、支援体制を構築する。また、家庭が経済的支援を受け入れるよう、母親、祖母との継続的な関係を構築する。

### 3 その後の状況

- 継続して家庭訪問を行った結果、毎回ではないが、本人と数分間、会話をすることができるようになった。その中で、本人がアニメに興味を持っていることが分かり、アニメについて尋ねると、イラストを示しながら話すこともある。
- 本人は学習に興味を持たず、意欲も見られない。
- 民生委員の働きかけにより、要保護児童対策地域協議会で、この家庭について取り上げ、支援策について検討することになった。
- SSWr が学校の家庭訪問に何度か同行し、母親と関係を築く事ができた。また、家庭の支援体制構築のため、母親の担当医との連携が必要であることについても説明し、同意を得る事ができたので、母親が通院している担当医ともつながることができた。